

# Gigamon社 GigaVUE 6.0のリリースによりDeep Observability（高度な可観測性）Pipelineが大きく進化



企業/組織のITチームは、新実装のネットワークのテレメトリ・データを一元処理するための次世代コンテナネットワークの可視性、アプリケーションメタデータの統合及びクラウドスケールのパフォーマンスを高く評価しています。

2022年11月2日（水） – Deep

Observability（高度な可観測性）のリーディング・カンパニーであるGigamon Inc.（本社：米国カリフォルニア州サンタクララ、日本代表：大久保 淳仁）は、Gigamon Hawk Deep Observability Pipelineへの新機能の提供を開始しました。Gigamon

Hawkを実現するソフトウェアGigaVUE

6.0は、複数のプラットフォームを跨いだ環境のコストや複雑さを大幅に削減しながら、ネットワークキング、セキュリティ及びクラウド運用チームへのセキュリティデリバリーの“民主化（デモクラタイゼーション）”を実現します。Gigamon

Hawkは、企業/組織のITチームが自信を持ってスケールアップとスケールアウトを実行し、クラウドトラフィックと管理外ホストのセキュリティとパフォーマンスの盲点をなくし、アプリケーションの透明性を向上し、分散したハイブリッドおよびマルチクラウド基盤への脅威に対してセキュリティを確保できるよう支援します。Gigamon

Hawkは、仮想、コンテナ、物理を問わず、ネットワークトラフィックにソースからアクセスし、効率的に集約、最適化及び強化し、実用的なネットワークレベルのインテリジェンスを全てのツールに提供することでObservability（可観測性）の能力を強化します。

クラウドファースト前提のグローバルでの要件事項の変化

フレクセラ社によると、大手企業の92パーセントがマルチクラウドインフラストラクチャを採用しています。また、市場調査会社EMA社によると、大手企業の96パーセントがネットワークパケットインテリジェンスとObservability（可観測性）インテリジェンスを統合し、77パーセントがネットワークレベルのインテリジェンスを活用してハイブリッドクラウドセキュリティを強化する予定であることが明らかになっています。その結果、81%の企業/組織が過去1年間にクラウドに関連したセキュリティインシデントを経験しています。

<https://www.flexera.com/about-us/press-center/flexera-releases-2021-state-of-the-cloud-report>

<https://getnetworkvisibility.com/wp-content/uploads/2022/07/EMA-Network-Visibility-Architecture-for-the-Hybrid-Multi-Cloud-Enterprise-Analyst-Report.pdf>

新たなフロンティアのDeep Observability（高度な可観測性）

このリリースでは、以下の機能拡張をご紹介します。

次世代コンテナネットワークの可視化 –

GigaVUEは、最小限のオーバーヘッドでネットワークレベルのObservability（可観測性）を実現

するeBPF (extended Berkeley Packet

Filter) を実装し、あらゆるコンテナネットワークインターフェース (CNI) とあらゆるコンテナオーケストレーションで展開可能な業界初の汎用コンテナタップ (UCT) ソリューションにより、コンテナ環境トラフィックの取得を実現しました。セキュリティとパフォーマンスに関するDeep Observability (高度な可観測性) の実現が可能になり、コンテナベースのマイクロサービスの揮発性や規模に関係なく、ワークロードが追従できるようになります。

アプリケーション・メタデータ統合フレームワーク - Gigamon

Hawkアプリケーションメタデータエンジンは、JavaScriptオブジェクト表記法 (JSON) とKafkaを利用してDynatrace、New Relic、Sumo

Logicなどの主要なObservability (可観測性) プラットフォームと統合しています。この統合により、既存のObservability (可観測性) ツールは、不正なサービスやアクティビティ、違法なクリプトマイニング活動の特定など、新しいセキュリティ機能を実装できるようになります。

クラウドスケールのネットワーク・テレメトリ処理 - Gigamon

Hawkの基本コンポーネントである新しいGigaVUE-HC1

Plusアプライアンスは、前世代と比較して半分の物理的設置面積と電力要件で2倍のパイプライン処理性能を提供します。この専用物理アプライアンスは、パブリッククラウドワークロードからのテレメトリを含む、物理、仮想、コンテナワークロードからのテレメトリ・データを集約することにより、効率的かつ経済的にネットワーク・テレメトリを処理することができます。

「GigaVUE Cloud

Suiteの最新リリースに含まれるユニバーサル・コンテナ・タップ (UCT) ソリューションは、Kubernetes環境ベースのコンテナ展開を含む最新のソフトウェアアーキテクチャに対応するためのGigamon社での技術革新の継続を示すものとして、我々は期待しています。」

とLayer8社プレジデントであるSteve Watt氏は述べています。

「Gigamonは正しい方向に向かっていきます。」

Layer8社は、ITアプリケーション及びインフラストラクチャのための包括的な戦略、設計、実装、人材派遣及びサポートサービスを提供する、高い付加価値を提供するGigamonの主要チャネルパートナーです。

「ここ数年、ワークロードをクラウドに移行する中で、重要なアプリケーションがどこで稼働していても、その可視性を維持することが課題の1つとなっていました。」

と、Sev1Tech社のハイインパクト・テクニカルソリューション担当シニア・バイス・プレジデントのJerry Hulbert氏は述べています。Gigamon Hawk Deep Observability

Pipelineは、弊社のSIEM、モニタリング及びパフォーマンスツールに実用的なネットワークレベルのインテリジェンスをもたらし、トラブルシューティングを迅速化し、複雑なハイブリッドおよびマルチクラウドITインフラを保護するための運用コストを低減します。」 と述べています。

New Relic社のクラウドおよび製品パートナーシップ担当バイス・プレジデントであるAkhil Kapoor氏は、「IT企業/組織は、ハイブリッドおよびマルチクラウドITインフラの分析、トラブルシューティング、最適化において、メトリック、イベント、ログ、トレースなどの複数のテレメトリ・データソースに益々依存するようになっていきます。」

と述べています。「Gigamonとのパートナーシップは、5,000以上の属性のアプリケーション・メタデータのインテリジェンスにより、当社のテレメトリ・データプラットフォームを強化し、仮想マシン、コンテナ、オンプレミス、パブリック及びプライベートクラウド間におけるセキュリティの盲点やパフォーマンスのボトルネックを特定と解消するために必要となるDeep Observability (高度な可観測性) をクラウドやセキュリティ運用チームに提供します。」と述べています。

GigamonのCPO（最高プロダクト責任者）であるMichael Dickmanは、「GigaVUE 6.0ソフトウェアのリリースは、プライベートおよびパブリッククラウド、すべてのコンテナ環境を含むすべてのワークロードに対してアプリケーション層までの粒度を実現する次世代の実用的ネットワークレベルのインテリジェンスをIT組織に提供します。」と述べています。

「弊社のDeep Observability（高度な可観測性）パイプラインは、豊富なGround Truth（正確さや整合性をチェックするためのデータ）のネットワークインテリジェンスをお客様に提供し、お客様が最優先されるセキュリティ及び運用課題を解決し、分散型ハイブリッドおよびマルチクラウドインフラを効率的かつ効果的に管理できるという弊社のビジョンを実現しています。」と述べています。

先頃開催されたGigamon Visualyze

Bootcampのオンデマンドビデオにて、Gigamonの最新イノベーションとハイブリッドおよびマルチクラウド環境にDeep

Observability（高度な可観測性）を実現する方法について詳細をご案内しております。（英語版）

[https://na.eventscloud.com/website/43368/?eventid=707321&reference=EMFollowUp?utm\\_source=Marketo&utm\\_medium=Email&utm\\_campaign=22Q4\\_WW\\_IDM\\_EM\\_Visualyze-Follow-Up-Email&utm\\_content=Missed-You-Email&utm\\_term=Missed-You-Email&mkt\\_tok=0DkyLVdFUi0wNzgAAAGHvdbFPpt2vKPY4eA-0G1oS-xV5w09f97vShg1koYlZdcjYxvV09gwVPGsJpDXLNZakqSRA90QgUMEgos\\_L5130bkXVkvngQdUAP3W7xBfajCwUvzk](https://na.eventscloud.com/website/43368/?eventid=707321&reference=EMFollowUp?utm_source=Marketo&utm_medium=Email&utm_campaign=22Q4_WW_IDM_EM_Visualyze-Follow-Up-Email&utm_content=Missed-You-Email&utm_term=Missed-You-Email&mkt_tok=0DkyLVdFUi0wNzgAAAGHvdbFPpt2vKPY4eA-0G1oS-xV5w09f97vShg1koYlZdcjYxvV09gwVPGsJpDXLNZakqSRA90QgUMEgos_L5130bkXVkvngQdUAP3W7xBfajCwUvzk)

【Gigamonについて】

Gigamon Inc.

は、実用的なネットワークレベルのインテリジェンスを活用し、Observability（可観測性）ツールの機能を強化したDeep

Observability（高度な可観測性）を提供しています。この高度な連携により、IT組織はセキュリティとコンプライアンスのガバナンスを保証し、パフォーマンスのボトルネックの根本原因の分析を迅速化し、ハイブリッドおよびマルチクラウドITインフラの管理に関連する運用負荷を大幅に削減することができます。全世界で販売パートナーおよびサービスプロバイダを通じて、4,200社以上の企業へ、物理、仮想、クラウドネットワーク向けに可視化基盤ソリューションを提供しています。米国連邦政府機関のトップ10すべて、グローバル銀行トップ10の7行、Fortune100企業の83社、モバイルネットワーク通信事業者トップ10の9社、テクノロジー企業トップ10の8社、医療関連プロバイダトップ10の8社に導入されています。Gigamonのミッションは、中堅・中小企業や分散拠点を持つ大企業や組織で、効率的運用かつ高ROIのセキュリティ、監視システム環境を実現することです。本社を米国カリフォルニア州サンタクララに置き、世界20か国にオフィスを展開しています。

さらなる詳細情報、プロモーション活動、最新動向は<https://www.gigamon.com/jp/>をご覧ください。

Gigamonとそのロゴは、米国と他の各国におけるGigamonの商標です。

Gigamonの商標の一覧は、[www.gigamon.com/legal-](http://www.gigamon.com/legal-trademarks)

trademarksに掲載されています。他の商標はすべて、それぞれの所有者に帰属します。

【本プレスリリースに関するお問合せ】

Gigamon Inc.

〒105-0022

[東京都港区海岸1-2-20](#) 汐留ビルディング3F

Sales担当

Tel: 03-6721-8349

Email: [sales-japan@gigamon.com](mailto:sales-japan@gigamon.com)

URL: <https://www.gigamon.com/jp/>

---

Generated by ふれりりプレスリリース

<https://www.prerele.com>